

事務局ニュース

《事務局業務日・時間》月曜日～金曜日(土日・祭日休業)
午前 9:30～午後 3:30

No.297 2022年8月1日
NPO 法人富山県腎友会事務局
〒931-8443 富山市下飯野 70-4
TEL:076-407-5085
FAX:076-407-5086
発行責任者 池田 充
編集 坂田 祐美
定価 50円(会費に含む)

新型コロナウイルス感染症について

全国で新型コロナウイルス新規陽性者が急増し、都市部を中心にウイルスに感染した透析患者の入院が困難になっていることから、厚労省は都道府県に対し「オミクロン株の感染流行を踏まえた透析患者の適切な医療提供体制の確保について(再周知)」の文書を7月14日付で出しました。同文書は、日本透析医会、日本透析医学会、日本腎臓学会にも示されており、この文書を受けて日本透析医会からも文書が出されました。その要点は以下の通りです。

1. 新型コロナウイルス治療薬の確保〔中和抗体薬及び経口抗ウイルス薬(ラゲブリオ)〕

透析患者が新型コロナウイルスに感染した場合、重症化リスクを有していることから、それぞれの病態等に応じた適切な治療薬を、早期に投与する体制を確保することが重要である。

2. 感染した透析患者の受け入れ体制の確保

(1) 受入病床のさらなる確保

透析患者においては依然として重症化の危険が高く、感染拡大下において新型コロナウイルス感染症の治療が可能な透析病床の必要性が高まることから、さらなる病床確保への取り組みをお願いします。

(2) 病床逼迫に伴い、やむを得ない場合の対応

感染した透析患者の受入病床のさらなる確保に取り組んでいただくことが前提であるが、外来維持透析施設において当該感染患者の透析を行うことも想定される。その際には、感染者と非感染者との時間的又は空間的な分離を行う等の外来維持透析施設における感染対策を徹底するとともに、各都道府県、外来維持透析施設及び受け入れ医療機関等とが緊密に連携し、当該感染患者の移送体制を確保するなど、総合的に対応ができるよう留意されたい。

令和4年度第1回北越ブロック会議

7月31日(日)WEB開催され、富山からは池田会長(全腎協会長・北越ブロック担当理事)、的場事務局長が参加しました。

会議では「組織強化」、「研修会・講演会活動」、「臓器移植推進」について協議し、各県の取り組み等も報告しました。

次回は11月に富山での開催を予定しています。

「臓器の移植に関する法律」の運用に関する指針の一部が改正

令和4年8月1日より「臓器の移植に関する法律」の運用に関する指針(ガイドライン)の一部が改正されます。

今回の改正は特に「15歳未満の知的障害者等の臓器提供に関する有効な意思表示が困難となる障害を有する者の取り扱い」および「虐待を受けた児童への対応」についての変更です。



富山県障害者絵画展作品募集



作品は9月30日(金)～10月2日(日)
10時～17時 イオンモール高岡 2F イオンホールに展示されます。

1. 応募対象 県内在住の身体障害者
2. 取扱作品 絵画(油彩・水彩等)、版画、はり絵、グラフィック画、パステル画等
(※写真、書、鉛筆画は除く)
3. 出 展 一人一作品とし額装仕上げ
4. 応募方法 応募用紙に必要事項を記入の上
9月2日(金)までに下記事務局へ

※作品の集荷案内は、応募された方へ別途通知あり
(事務局)

〒930-0094

富山市安住町 5-21 サンシップとやま 3階
富山県身体障害者団体協議会・

富山県障害者社会参加推進センター(担当:林)

TEL 076-444-0213 FAX 076-433-4610

※応募用紙は腎友会事務局にもあります※

特別養護老人ホームへの全国的調査 透析患者の入居は約9割『断る』

全国の特別養護老人ホーム(特養)を対象としたアンケート調査によると、いまだに大多数の特養が通院送迎を必要とする透析患者の入居について、入居を断る可能性が高いことが明らかになりました。

このアンケートは、昨年、全国の特養 5,000 施設を対象に、医療的ニーズを持つ人の入居に関する実態を調査として行われたものです。そのなかで、特定の医療措置を要する者から入居希望があった場合の対応について、「摘便」「浣腸」「褥瘡・創傷の処置」については 80%以上の施設が『入居は断らない』とする一方、「透析が必要な入居者の日常的な観察・送迎(在宅自己腹膜灌流を含む)」では約 90%が『入居を断る』『断る可能性がある』と回答しました。『入居を断る』の回答のなかには、すでに入居している場合であっても透析が必要になれば退所となるというものもありました。

ちなみに他の医療措置では「インスリンの注射」は 53.4%、「胃ろう・腸ろうの管理」は 45.7%、「喀痰吸引」は 43.4%が『入居は断らない』となっており、これらと比較すると透析患者の入居がいかにハードルの高いものであるかが分かります。

透析患者の介護施設への入所・入居の受け入れが少ないことは以前から問題となっており、全腎協はじめ各県組織でも長年この問題に取り組んでいます。近年では、透析患者の入所・入居に積極的な施設も現れ、全腎協への問合せもあるそうです。しかしながら、今回のアンケート調査の結果は、まだ状況が好転していないことを示しており、今後さらにこの課題に取り組む必要があります。

本会でも、特養をはじめとする高齢者施設が透析患者の受け入れに理解を示してくださるよう、毎年、県へ要望しており今年度の回答は以下の通りでした。今後もこの要請を継続していきます。

【県の回答】

透析患者については、継続的な人工透析が必要となることから、高齢者施設での受け入れにあたっては、透析治療を行う医療機関との連携、また、当該医療機関までの送迎および付添いなど、予め施設において体制を整える必要があると考えている。

県として、各施設への指導は難しいものの、ご要望の趣旨については、特別養護老人ホーム等で構成される、県老人福祉施設協議会などの関係団体に伝えてまいります。

【出典】

令和3年度老人保健事業推進費等補助金 厚生労働省老人保健健康増進等事業
特別養護老人ホームにおける医療ニーズに関する調査研究事業 報告書:

https://www.jri.co.jp/MediaLibrary/file/column/opinion/detail/2021_theme58.pdf



事務局夏季休業のご案内

8/13(土)~8/16(火)



ご迷惑をおかけしますが、よろしくお願いいたします

今後の予定

- 全腎協青年研修会(WEB) 8/28
- 全腎協理事会(WEB) 9/10

※今後の状況により中止又は延期する場合があります



訃報

本会元理事の高瀬博志さんが7月にご逝去されました。高瀬さんは平成28年から2年間本会役員を務められ、会の運営にご尽力いただきました。

高瀬さんのこれまでの功労に感謝するとともに、謹んでご冥福をお祈りいたします。

おくやみ

- 渋谷 幸子 殿 政岡内科病院 享年93歳
- 山岸 定幸 殿 不二越病院 享年67歳
- 宮嶋 利子 殿 市野瀬和田内科医院 享年80歳
- 高瀬 博志 殿 黒部市民病院 享年57歳

謹んでご冥福をお祈り致します